

=====

本メールマガジン[NEE Mail Magazine]は、経済教育ネットワークより会員の皆様にお送りしております。

=====

◆◇-----◆

◆ NEE Mail Magazine 108号 ◆

-----2018-1-9◆◇

2018年になりました。本年もよろしくお願いいたします。

今年には明治維新150年になります。平成という元号のカウントダウン準備もはじまり、大きな時代の区切りの年になりそうです。学校に目を転ずれば、年度末の3月には高校の次期学習指導要領の発表も予定されています。ネットワークの活動も12年目にはいり、エコノミストと現場教員、そして教育関係者をつなぐプラットフォームという役割をあらためて確認しながら活動をすすめたいと思います。

こんな新年の今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

【1】最新活動報告

17年12月と1月初旬の活動やニュースを報告します。

【2】イベントカレンダー

部会の案内、関連団体の活動などを紹介します。

【3】授業のヒント「手書きのすすめ」

【1】最新活動報告

*17年12月から1月初めに行われた活動を報告します。

■「冬の経済教室」を開催しました。

日時:2017年12月27日(水)13時00分~16時55分

場所:慶應義塾大学三田キャンパス東館ホール

主な内容:116名参加でホールは満席でした。

今回は、全国公民科・社会科教育研究会授業研究委員会、東京証券取引所との共催で、テーマは「経済教育の風を主権者教育に」でした。

(1)冒頭、主催者の全公社研授業研究会の落合隆先生とネットワークの新井から、なぜ共催の教室を開催するかの趣旨説明がありました。

(2)前半は、慶應義塾大学経済学部教授の坂井豊貴先生の講演「多数決を疑う」です。

坂井先生は、多数決の欠陥である票の割れから話をはじめ、多数決でない決め方を紹介し、多数決の正しい使い方では話をまとめられました。それを受けて、坂井講演に関する質疑が行われました。

(3)後半は、ネットワークから三つの実践報告が行われました。

最初は、塙枝里子先生(東京都立府中東高等学校)の「持続可能な社会づくりと主権者教育」で、持続可能な社会づくり(SDGs)と経済的な見方・考え方(ライカー・オードシュックモデル、最後通牒ゲーム)の二つの視点から取り組んだ授業とその結果を報告されました。

次に、大塚雅之先生(大阪府立三国丘高等学校)から「政策選択ができる生徒の育て方ー社会保障での試みー」が発表され、政策選択におけるトレードオフ、政党の政策と個人の選択、政策選択に際してのスコアリングの方法など、生徒の意識を揺さぶりながら多数決以外の選択手法に取り組ませる授業の紹介がされました。

三番目は、竹内大輔先生(北海道日高町立日高中学校)の「中学校における主権者教育ー多数決を考えるー」で、教科書を使った応用問題として税の在り方、特に間接税の増税問題とその選択を、身近な事例からひろげて考えさせる授業提案がされました。

(4)これらの報告を受けて、坂井先生からコメントがあり、発表者と坂井先生の質疑やフロアからの質疑が行われました。今回の教室は、講演内容と実践報告がかみ合い、経済教育からのメッセージを主権者教育へ届ける有益な時間となりました。

内容の報告は、以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/activity/2017%20Fuyukeizai/Fuyukeizai2017Tokyo.pdf>

■先生のための経済教室(沖縄)を開催しました。

日時:2018年1月6日(土) 13時00分~17時00分

場所:沖縄県立博物館・美術館の美術館・講座室

大杉昭英先生(教職員支援機構次世代型教育推進センター・上席フェロー)が次期学習指導要領の下での金融教育のあり方の講演、河原和之先生(立命館大学他)が地理と経済の融合授業提案、篠原総一先生(京都学園大学学長)が歴史と経済の融合授業について講義を行いました。こちらも44名参加と満席でした。

内容の概略はまとまり次第HPにアップいたします。

■大阪部会(No.56)を開催しました。

日時:2017年12月9日(土) 18時00分~20時00分

場所:同志社大学 大阪サテライト

内容の概略:10名参加で、6本の報告がありました。

(1) まず、野間克敏先生(同志社大学)から、ネットワークの各部会の活動報告がありました。

(2) 阿部哲久先生(広島大学附属中・高等学校)から「社会的包摂のための比較

生産費説の授業開発」と題する実践報告がありました。ゼロサム的な思考をもちがちな生徒に対して、アルバイトや宿題の場面を想定した数値例を使いながら、「分業と交換の利益」を比較優位から理解させようとする授業で、それを障害者の社会参加まで話題を広げたものです。

(3) 山本雅康先生(奈良学園中・高等学校)から、「新課目「公共」や大学入試共通テストを見据え、需要曲線・供給曲線をもとに雇用や賃金について考えるワーク」の授業例が報告されました。市場経済の仕組みの基本的事項を確認した後、いくつかの大学入試問題を解き、それを応用して最低賃金制度の是非を考察・議論・発表させる構成の授業です。

(4) 大塚雅之先生(大阪府立三国丘高等学校)より、東京での冬の経済教室で予定されている「政策選択のできる生徒の育て方ー社会保障での試みー」と題する報告がありました。

(5) 丹松美代志先生(大阪教育大学等)から、二点報告がありました。ひとつは、前回の大阪部会で紹介された「解説合戦&討論」という取り組みの結果報告で、「憲法改正」をテーマに活発な議論がかわされたとのこと。もうひとつは、丹松先生が「おおさか学びの会例会」で発表した「真正な学びへのアプローチ」の内容です。「主体的で対話的で深い学び」のためのアクティブ・ラーニングの位置づけや、学習科学の視点から、「真正な学び」へのアプローチの仕方が解説されました。さらに実践例として、一次資料の読み取りから始める歴史学習の例が紹介され、検討されました。

(6) 李洪俊先生(大阪市立長吉中学校)から、2017年春に実施された公立高校入試問題のうち、記述問題に関する全国的な傾向などがコメントされました。

(7) 吉田英文先生(大阪府立大手前高等学校)から、高校での政治経済の教え方についての提案がありました。現在の教科書順ではなく、現代の日本経済を先にし、歴史的な出来事の中で現代経済の仕組みや概念を学ぶようにしてはどうかとの提案で、今後さらに検討することになりました。部会内容の詳細は、以下のHPをご覧ください。

www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka56report.pdf

【 2 】イベントカレンダー

* イベント予定です。(開催順)

■ 先生のための「冬の経済教室」in 札幌を開催します。

日時:2018年1月27日(土) 13時00分~17時00分

場所:キャリアバンクセミナールーム(Sapporo55ビル)

金子幹夫先生、吉川敦巳先生、濱地秀行先生、篠原総一先生の講義と実践報告を行ないます。

内容の詳細、参加方法は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/keizaikyousitu/2018%20keizaikyoushitu/2018Sapporofuyukeizai.pdf>

■年次大会(シンポジウム)を開催します。

日時:2018年3月17日(土) 13時00分~17時00分

場所:京都学園大学 太秦キャンパス

テーマ「中・高の新学習指導要領を経済教育から解剖する」

第一部で、中学校の新学習指導要領を巡り、福井大学教授橋本康弘先生の基調講演を受けて、エコノミスト(慶応義塾大学教授加藤一誠先生)、教科書編集者(清水書院編集長中沖栄氏)、現場教員(札幌市立東栄中学校教頭兼間昌智先生)からの問題提起が行われます。

第二部では、高等学校の向けに、新しい金融に関する教え方に関する同志社大学教授鹿野嘉昭先生の講演と、それを受けて現場の二人の教員からの質疑を交えながら理解を深める企画を用意しています。

内容の詳細、参加方法は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/Sympo/20180317Symposium.pdf>

* 定例部会のお知らせです。(開催順)

■東京部会(No.97)を開催します。

日時 2018年1月18日(木) 19時00分~21時00分

場所:慶応義塾大学三田キャンパス研究棟 442号会議室

■札幌部会(No.19)は冬の経済教室をかねて開催します

日時:2018年1月27日(土) 13時00分~17時00分

場所:キャリアバンク職業訓練校教室

■名古屋部会(No.14)開催します

日時:2018年2月24日(土) 15時00分~17時00分

場所:椋山女学園大学 現代マネジメント学部棟

■大阪部会(No.57)を開催します

日時:2018年2月24日(土) 18時00分~20時00分

場所:同志社大学 大阪サテライト(予定)

【 3 】授業のヒント

■読解力をつけるための「手書き」のすすめ

前回は「音読」のすすめであったのに対して、今回は「手書き」のすすめです。

「手書き」は、暗記のための手段として考えられていますが、それだけでなく、文章だつたら書くことで文脈をとらえながら理解を深める方法です。また、グラフや統計類であれば、その意味を自分で考える手がかりが得られる方法です。

例えば、江戸時代の蘭学者たちは、入手した原書を写し取って学んだということが、『福翁自伝』などにも書かれています。福澤は、物理書を写し取ったことで「私などが今日電気の話聞いておおよそその方角がわかるのは、全くこの写本のお陰である」と言っています。

そんな手書きが消えていったのは、なんといってもデジタル機器の登場、具体的にはパソコン、携帯、スマホの登場でしょう。

筆者が、手書きがすたれはじめたなあと実感したのは、定期テストの時間割の教室掲示の時です。多くの生徒たちが掲示の前に集まり、書きうつしている中で、携帯についているカメラでパチリとやった生徒を見たとき、時代は変わるぞと思いました。もう10年近く前の出来事です。それ以来、時間割を写メする生徒は増え、ついには黒板まで写メしようとする生徒が出てきました。

ほぼ同時期に、プレゼンテーションではパワーポイントが当たり前になり、手書きの資料やグラフを使つての発表は急速に減つてゆきました。

アナログからデジタルへの変化という意味では進化なのでしょうが、確実に読解力が落ちてきたと感ずきます。ただし、これは実感でしかなく、近頃はやりのエビデンスベースの話ではありません。

経済学習では、手書きはグラフ作成、データの読み取りで効果を発揮します。

グラフに関しては、例えば、需給曲線のグラフでは、縦軸と横軸に何がくるのかを手書きだとはっきり認識することができます。それが関数であることも自分でデータをプロットすることで理解することができるはずですが、そうすると、通常は横に読む需給のグラフが、縦に読むことで提示価格の考え方に気づき、さらに余剰概念に拡張することができます、市場メカニズムの理解が深まります。

データに関していえば、手書きをすることで、数値をどのように「見える化」してゆくのかを考える必要に迫られます。例えば、財政などで棒グラフを使って政府支出項目を年次比較させるグラフを自分で作ってみると、棒グラフより本当は面積グラフで変化をたどらないと支出項目の比率の比較はできないことに気づいてゆくはずですが、そういう手作業を通して、財政だけでなく複雑な経済現象を自分のあたまで整理して理

解するという芽がうまれてくるはずです。

手書きには、時間がかかります。表計算ソフトを使えば、簡単に計算もグラフも作れてしまいますが、それが事象を本当に理解することなのかは、一度振り返ってみると良いかもしれません。

マンキューもスティグリッツも、アメリカの経済学のテキストでは、冒頭部分で、経済のグラフの作り方や読み方、データの読み方が解説されています。

日本の教科書でこのようなものが少ないのは、それを書かなくとも前提として理解しているといことがあったのでしょう。でも、デジタル化、手書きの消滅化が進行する日本でこそ、この種の配慮が必要になってきているのではなかろうかと思うことが多くなっています。とはいえ、この傾向日本だけでなく世界中で進行していますから、読解力の衰えは世界的な課題なのかもしれません。

ちなみに、最近では年賀状が減るだけでなく、宛名も含めてすべてパソコン作成が目立ってきました。今年受け取った年賀状には差出人の名前のないものもあり、読解力と関係はないかもしれませんが、教える側(おとな)の読解力も低下しているかもしれませんね。(新井)

【 4 】編集後記(みみずのたはこと)

冒頭に明治 150 年のことを書きましたが、今を去る 50 年まえ、某大学の入学試験で「今年が明治 100 年になる」を英訳せよという問題がでました。その試験をうけていた新井くんは、何、明治 100 年？というところで固まってしまいました。

老齢になっても試験の夢を見るという話を昔聞きました。あれは本当だと思う昨今です。だからこそ、良い問題、記憶に残る良問を作る必要がありますね。

英訳の正解例は、次号のお楽しみにしておきます。(新井)

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>

◆◇

編集・発行 : 経済教育ネットワーク

=====
(C) Network for Economic Education ◆◇